

花のまちづくり・みどりいっぱい運動 秋苗リスト

比較的、寒さや乾燥に強く、日当たりを好む種類です。過湿にならないように乾燥気味に管理します。
 (*ただし、植付け時にはしっかり水をあげてください。)

種類	特性と栽培管理
パンジー (スミレ科)	日照不足になると花付きが悪くなったり、茎が弱々しくなります。花がら摘みをこまめにして、新しい花を咲かせます。 植えつけ時、ポット苗の白い根が込み合っている場合は、底の部分の根をはがし、側面の根もほぐして、根張りを良くします。
ビオラ (スミレ科)	日照不足になると花付きが悪くなったり、茎が弱々しくなります。花がら摘みをこまめにして、新しい花を咲かせます。 植えつけ時、ポット苗の白い根が込み合っている場合は、底の部分の根をはがし、側面の根もほぐして、根張りを良くします。
ノースポール (キク科)	過湿を嫌うので乾燥気味に育てます。日照不足になると花付きが悪くなったり、茎が弱々しくなります。 花がら摘みをこまめにして、新しい花を咲かせます。花がひととおり咲き終わったら、花茎の半分程度に切戻します。
ハボタン (アブラナ科)	生育が進むにつれ、下の葉が黄色くなって枯れてくるので、傷んだ下葉は取り除きます。 植え付け時に元肥を混ぜ込んでおき、その後は、葉の発色を助けるため、施肥を控えます。
シロタエギク (キク科)	株全体がシルバー色で、花の少ない花壇も明るく演出してくれる風合いです。多湿を嫌うので乾燥気味に育てます。 いちばん伸びている(背の高い)芽を摘心すると株全体のボリュームが出て、形よく仕上がります。
アリッサム (アブラナ科)	耐寒性があるものの、霜や寒風に当たるとその部分が枯れてしまうため、霜よけ・風よけが有効です。多湿に弱いので、根腐れに注意。 株全体が満開期を過ぎた頃、3分の1程度の高さに切り戻し肥料を施すと、茎が伸びてきて再び花をつけます。

栽培管理キーワード

「花がら摘み」

枯れた花をそのままにしておくと、湿気で腐ったり、タネができて株の栄養がとられてしまいます。枯れた花をこまめに花茎ごと切り落とすことで、次の開花が進みます。

「茎葉の間引き」

茎葉が茂り過ぎて混みあうと風通しが悪く、蒸れてしまい、生育が弱くなって開花も途切れてしまいます。混みあっている部分は、摘み取って風通しを良くします。

「切り戻し」

花後や、夏場の暑さで生育が衰えて花が咲かなくなったら、一度草丈を半分くらいにぱっきり切り戻すと、再び花をつけるようになります。生長のため肥料を与えます。

「摘心(てきしん)」

芽の先端を摘み取ると、下の方から数本の茎が伸びてきてバランスよく茂り、花芽も多くなります。

「根腐れ」

水をやり過ぎて、根が常に水に浸かっている状態にすると、呼吸ができなくなり根が腐って枯れてしまいます。表土が乾いた状態となってから水やりをします。